

令和 3 年度

「運営に関する計画・自己評価(最終評価)」

大阪市立難波中学校

令和 4 年 2 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 安全・安心な学校づくりをめざして、全教職員が連携して問題行動を未然に防止する指導に力を入れて取り組み、学校の規律を維持している。また、豊かな心を育む教育を推進し、他者を思いやる優しい心の育成に努めている。さらに、学校の教育活動のあらゆる場面で生徒に自信を持たせるよう取り組み、自尊感情を高めるようにも努めている。しかし、日本語の指導や配慮を要する生徒が増えており、個に応じた支援をさらに充実させていかなければならない状況が年々厳しさを増している。
- 学習面では、ICT 機器を活用し、生徒の関心・興味を高めつつ、個に応じた学習を進めているが、学習習慣の定着がはかりきれしていない。全国学力・学習状況調査や中学校チャレンジテストにおいて、本校の各項目の平均正答率は大阪市の平均に及ばず、学力の向上が喫緊の課題である。
- また、起床時間や就寝時間など基本的な生活習慣においても課題があり、さらに家庭と連携しながら、生活のリズムを整え、健康の保持・体力の向上もはかっていかなければならない。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】

- 平成 29 年度～令和 3 年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消に向けて組織的に対応している割合を 100%にする。
➢ (H29)100.0%→(H31)100.0%→[R1]100.0%→[R2]100.0%→[R3]100%
- 毎年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を毎年、前年度より減少させる。
➢ (H29)1 人→(H31)1 人→[R1]0 人→[R2]1 人→[R3]1 人
- 毎年度末の校内調査において不登校の生徒の割合を前年度より減少させる。
➢ (H29)4.42%→(H31)7.82%→[R1]11.30%→[R2]9.09%→[R3]10.63%
- 平成 29 年度～令和 3 年度の年度末の生徒アンケートにおける「集団や社会のルール、道徳マナーを守っていくことの大切さを学んでいますか」^①、「他者を思いやり、相手の立場になって考え、優しい心を持って行動できるように努めていますか」^②の項目について、「よくあてはまる」、「ややあてはまる」と答える生徒の割合を 75%以上に維持する。
➢ ①(H29)89.0%→(H31)91.8%→[R1]93.9%→[R2]96.8%→[R3]95.0%
➢ ②(H29)90.2%→(H31)91.1%→[R1]87.1%→[R2]92.9%→[R3]89.9%
- 令和 3 年度末の生徒アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「よくあてはまる」、「ややあてはまる」と答える生徒の割合を 90%以上にする。
➢ [R2]95.8%→[R3]94.5%
- 令和 3 年度末の生徒アンケートにおける「友達や先生に相談しやすい雰囲気がありますか」の項目について、「よくあてはまる」、「ややあてはまる」と答える生徒の割合をそれぞれ 90%以上にする。
➢ [R2]84.1%→[R3]84.7%

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 令和 3 年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、平成 28 年度より向上させる。(標準化得点とは、各年度の調査の本市の平均正答率が、それぞれ 100 となるよう標準化した得点のこと)

- 1年生(H28)86.6→[R2]88.3→[R3] 97.5
- 2年生(H28)88.0→[R2]85.8→[R3] 98.0
- 3年生(H28)88.3→[R2]未実施→[R3]97.5
- 令和3年度の中学校チャレンジテストにおける正答率4割以下の生徒を、いずれの学年も平成28年度より10ポイント減少させる。
 - 1年生(H28)40.0→[R2]33.9→[R3]19.4
 - 2年生(H28)43.1→[R2]48.1→[R3]26.9
 - 3年生(H28)50.8→[R2]未実施→[R3]43.1
- 令和3年度の中学校チャレンジテストにおける正答率7割以上の生徒を、いずれの学年も平成28年度より5ポイント増加させる。
 - 1年生(H28)18.3→[R2]11.9→[R3]25.0
 - 2年生(H28)5.2→[R2]13.0→[R3]21.2
 - 3年生(H28)3.2→[R2]未実施→[R3]1.4
- 令和3年度の全国学力・学習状況調査の生徒質問紙における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して「している(どちらかといえばしている)」と答える生徒の割合を平成28年度より増加させる。
 - (H28)53.4%→[R2]81.6%※校内調査(3年)→[R3]65.3%
- 令和3年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点を、平成28年度より7ポイント向上させる。
 - 男子(H28)38.68→[R2]37.67※新体力テスト→[R3]39.77
 - 女子(H28)45.53→[R2]45.66※新体力テスト→[R3]49.59
- 平成29年度～令和3年度の年度末の生徒アンケートにおける「朝食を毎日食べていますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を70%以上に維持する。
 - (H29) 72.1%→(H31) 63.2%→[R1] 80.9%→[R2] 84.4%→[R3]83.8%

2 中期目標の達成に向けた年度目標(全市共通目標を含む)

【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】

全市共通目標

- 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
 - [R2]100.0%→[R3]95.0%
- 校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を90%以上にする。
 - [R2]95.8%→[R3]94.5%
- 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。
 - [R1]0人→[R2]1人→[R3]1人
- 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。
 - [R1]1.70%→[R2]2.27%→[R3]1.93%

学校園の年度目標

- 校内調査を 7・12 月に実施し、①「学校へ行くことが楽しいですか」、②「友達や先生に相談しやすい雰囲気がありますか」、③「授業に集中して取り組んでいますか」、④「自分の将来に夢や希望をもっていますか」に「そう思う」と答える生徒の割合を、1 回目より増加させる。

- ①[1 回目]38.0%→[2 回目]35.2%
- ②[1 回目]39.2%→[2 回目]43.5%
- ③[1 回目]30.4%→[2 回目]30.7%
- ④[1 回目]31.0%→[2 回目]29.4%

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標

- 中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
 - 1 年生※³科 [R2]0.86→[R3]0.92
 - 2 年生※³科 [R2]0.80→[R3]0.93
 - 3 年生※⁵科 [R2]実施せず→[R3]0.91
- 中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の 7 割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント減少させる。
 - 1 年生※³科 [R2]33.9→[R3]25.0
 - 2 年生※³科 [R2]41.1→[R3]21.8
 - 3 年生※⁵科 [R2]実施せず→[R3]27.5
- 中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を 2 割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント増加させる。
 - 1 年生※³科 [R2]13.6→[R3]18.1
 - 2 年生※³科 [R2]14.3→[R3]21.8
 - 3 年生※⁵科 [R2]実施せず→[R3]19.6
- 校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。
 - [R2]80.8%→[R3]86.6%
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点において、全国平均との差を -5 ポイント以上にする。※()内は全国平均、[R2]は大阪市体力テストから
 - 男子[R1]32.71(41.6)→[R2]37.67→[R3]39.77(41.18) 差▲1.41
 - 女子[R1]42.91(50.0)→[R2]45.66→[R3]49.59(48.56) 差 1.03

学校園の年度目標

- 新体力テストにおいて、昨年度の体力合計点を維持・向上させる。
 - 男子[R2]37.67→[R3]35.79
 - 女子[R2]45.66→[R3]47.93
- 校内調査における「朝食を毎日食べていますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を 80.0%以上にする。
 - [R2]84.4→[R3]83.8%

3 本年度の自己評価結果の総括

本年度の学校運営全体を通じての成果

- いじめの・虐待等についての研修の実施により、教職員の理解、迅速な対応へとつながった。
- 一人一台端末の効果的な活用に向けた取組について、教員が試行錯誤し、一定の操作スキルを獲得することができた。
- LGBTQ の課題に教職員の力を結集し、制服のモデルチェンジなど、課題解決に向けた第一歩を踏み出すことができた。
- 区内の子どもたちの連携がオンラインなど限定的なものになってしまったことは仕方ないが、つながりを大切にするために各校の取組を共有することができた。

項目や取組の重点の置き方について

- 学力向上の取組を「漢字検定」から「言語能力向上」へとシフトしたこと、一人一台端末の効果的な活用に向けた取組に、教員もスピード感をもって対応せざるを得なかったが、相互のサポートで乗り越えてくれたが、もう少し丁寧なサポートが必要であった。
- このような情勢下では、不登校生や別室対応が必要な生徒、支援が必要な生徒がまず取り残されてしまう。そのことを常に意識し、生徒・保護者の想いを受け止め、個に応じた支援を継続する必要がある。

目標を達成できなかった項目に見られた課題について

- 不登校生徒等に対する適切な支援について、「好ましい変化が見られた」「登校できるようになった」割合が全体の 14%であった。
- 読解力の向上に係る取組については、期間が短かったため、研修から授業実践、効果検証までに至らなかった。また、継続して、自己肯定感が低く、自信がない生徒が多いと感じられる。
- サポーター・元気アップ・各主担と連携した学習会について、夏季休業中の学習会には多数の生徒が参加したが、感染防止対策による定期テストの実施回数の減少などがあった

成果を伸ばし課題を改善するために、次年度に向けて取り組むこと

- 不登校生徒等に対する適切な支援について、重大事案への危機感を常に持ち、チェック機能を確実に機能させる。
- 読解力の向上に係る取組について、教科を越え、教育活動のあらゆる機会を通じ、読解力向上を意識した教員研修(外部講師による研修を含む)を実施し、授業実践を継続する。また、全学年でリーディングスキルテストを実施し、教育センターとも連携して教員の指導力向上を図る。また、人権教育、キャリア教育等を各教科横断的に、自他を尊重する心、自己の将来との繋がりを見通し、自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身につけさせるための教育課程の充実を図る。
- ICT 機器の効果的な活用については、オンライン・オンデマンドと従来の学習形式のハイブリッド
- サポーター・元気アップ・各主担と連携した学習会について、学校全体をあげての取組とし、生徒の自主学習環境を整える。また、生徒が家庭学習に取り組めるよう、デジタルドリルの活用を推進する。

大阪市立難波中学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

| | | |
|------|----------------------|-------------------------|
| 評価基準 | A: 目標を上回って達成した | B: 目標どおりに達成した |
| | C: 取り組んだが目標を達成できなかった | D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|--|------|
| <p>【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】</p> <p>全市共通目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。【達成】 <ul style="list-style-type: none"> ➢ [R2]100.0%→[R3]95.0% ● 校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を90%以上にする。【達成】 <ul style="list-style-type: none"> ➢ [R2]95.8%→[R3]94.5% ● 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。【未達成】 <ul style="list-style-type: none"> ➢ [R1]0人→[R2]1人→[R3]1人 ● 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。【達成】 <ul style="list-style-type: none"> ➢ [R1]1.70%→[R2]2.27%→[R3]1.93% <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 校内調査を7・12月に実施し、①「学校へ行くことが楽しいですか」、②「友達や先生に相談しやすい雰囲気がありますか」、③「授業に集中して取り組んでいますか」、④「自分の将来に夢や希望をもっていますか」に「そう思う」と答える生徒の割合を、1回目より増加させる。【未達成】 <ul style="list-style-type: none"> ➢ ①[1回目]38.0%→[2回目]35.2% ➢ ②[1回目]39.2%→[2回目]43.5% ➢ ③[1回目]30.4%→[2回目]30.7% ➢ ④[1回目]31.0%→[2回目]29.4% | B |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|---|------|
| <p>取組内容1【施策1 施策安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● いじめ認知・対応方針を周知し、いじめの未然防止を徹底する。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● フローチャートを作成し、毎月、かつ発生時に対策委員会を開催する。 ● 定期的に生徒調査、教職員研修を実施する。 ● 「いじめについて考える日」の取り組みを実施する。 ● 重大事案発生時には、外部機関と迅速かつ適切に連携を図る。 | B |

| | |
|---|---|
| <p>結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ● フローチャートを作成し、いじめ発生時の体制を2回周知。また、月1回かつ緊急時には必ず対策委員会を開催し、組織としていじめ対策を講じている。 ● 生徒調査をいじめ認知を行う対策委員会の前後に必ず実施し、3カ月時点で主に担任の面談を実施。教職員研修会は2回実施済み。 ● 有志生徒、全教職員による、いじめ対策プロジェクトを立ち上げ、動画作成・視聴・いじめに対する宣言を実施。合わせてスクールカウンセラーの紹介、悩み事の相談体制を周知した。 ● 重大事案には至っていないが、即日の情報収集、外部機関への連携を行う体制を整えている。 | |
| <p>取組内容2【施策1 施策安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 問題行動に対し、学校全体で対応にあたる。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● フローチャートを作成し、週1回ペースでの全体への啓発を実施する。 ● 外部講師を招く等、違法薬物、喫煙等の非行防止教室を実施する。 ● 問題行動の改善率を比較し、2学期の改善率を1学期以上にする。 <p>結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ● フローチャートによる対応を全教職員に周知。啓発については週1回以上のペースで行い、情報を収集・共有・対応まで切れ目なく行える体制である。 ● ネットトラブル対応のため外部講師と保護司会・警察のオンライン非行防止教室を実施予定。 ● 非行・SNSの校内・校外との不適切な交流等の問題行動に対応したが、不登校問題・SNS上の問題と関連して学校内対応が困難な事象が多く、改善率は57%から55%に減少した。 | B |
| <p>取組内容3【施策1 施策安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 不登校生徒等に対する、個別対応や進路選択へ向けた適切な支援を行う。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 校内適応指導教室など、別室等の個別対応も実施する。 ● 定期的に対策委員会を実施し、登校しにくい生徒、外部機関との連携との連絡記録を行う。 ● 校内研修「不登校」における教職員の理解度の確認と、不登校に至った要因の分析を行う。 ● 重大事案発生時には、外部機関と迅速かつ適切に連携を図る。 <p>結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 別室に対応するサポーターの確保等の方策を練りながら、別室等個別対応の検討を進めているが、「好ましい変化が見られた」や「登校できるようになった」割合は全体の14%にとどまった。 ● 月1回対策委員会で状況確認。連絡記録は月1回、学期末にまとめ記録を作成している。 ● 研修会を2回実施。要因の分析として、様々な角度から対策委員会で情報を確認している。 ● いじめや暴力、その他の要因と重なる重大事案に対し、密に情報収集し、外部機関との連携を図っている。 <p>改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 社会的自立を促す教育機会確保法についての研修をしつつ、学力保障と進路指導を意識した登校刺激を行い、登校時に温かく迎え入れる姿勢を担任・学年が連携して行う対応がさらに必要がある。 | C |

| | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 不登校率が毎年高い水準であるため数が多く担任だけのチェック機能では手が足りなくなっているという懸念がある。いじめや暴力と関連する重大事案への危機感を平時から常に持つことを忘れないよう学年会で確認したことを、生徒指導主事や管理職に学年主任が必ず報告する体制の構築をするなど、チェック機能を持たせる仕組みづくりを検討する必要がある。 | |
| <p>取組内容 4【施策 1 施策安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 児童虐待への適切な対応を図り、生徒に対する適切な支援を行う。 <p>指標</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ● 法令や対応についての教職員研修を実施し、教職員理解度の確認を図る。 ● 児童虐待防止法に則った、迅速かつ適切な外部機関との連携を図る。 <p>結果</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ● 教職員研修を 1 回実施。法令や対応について教職員に周知・確認を行った。 ● 児童虐待防止法に則り、虐待の疑いがあれば、迅速かつ適切に外部機関と連携を図った。 | A |
| <p>取組内容 5【施策 1 施策安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ネットや SNS を介したいじめや犯罪に巻き込まれないよう、生徒や保護者への啓発を図る。 <p>指標</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ● 外部講師等を招いたインターネット安全利用教室を実施する。 ● 学期に 1 回、紙面やホームページでの啓発を実施する。 <p>結果</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ● 講師を招いたインターネット安全利用教室を 1 学年で実施。もう 1 学年は保護司会・警察の非行防止教室と兼ねて実施予定。 ● SNS トラブルへの対応について知識とともに教職員へ情報共有、全校生徒へ集会等を通じて啓発を行っている。 | B |
| <p>取組内容 6【施策 2 道徳心・社会性の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 人権教育年間指導計画にそって、同和教育をはじめ、多様な体験・学習を実施し、人権総合学習の充実を図る。 ● 全学年を通して、SDGs の取組を推進する。 <p>指標</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域産業でもある太鼓・皮革等、同和問題に関する学習を実施する。 ● 8・6 人権平和登校日、ピースおおさか見学などの平和学習を実施する。 ● なにわ子ども人権文化祭や小中連携による交流活動を、コロナ禍で工夫して実施する。 <p>結果</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ● 年間指導計画にそって、3 年間の学びを視野に各学年で発達状況に応じて人権学習を実施。SDGs の取組では、全学年で教科横断的にも実施。 ● 8・6 登校日は区民センターで開催できず、平和学習の視点から、中村哲さんの人道支援などについて、3 年生の代表が全校生徒に Online で伝えた。コロナ禍の影響で見学は未実施であるが、各学年でそれに代わる平和学習を実施。 ● なにわ子ども人権文化祭など、小中連携による交流活動はコロナ禍で対面実施ができておら | B |

| | |
|--|-----------------|
| <p>ず、小・中・支援学校での取組を2月中にDVDにまとめ、共有予定。</p> | |
| <p>取組内容 7【施策 2 道徳心・社会性の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 多様な生き方や価値観に触れ、経験し感じたことをもとに、生徒が学ぶ意欲を高め、勤労観・職業観を養うとともに、生きる力を身につけさせる。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 専門・専修学校体験講座、職場体験学習、職業講話、進路学習等、また、キャリア・パスポートの有効活用により、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す。 ● 校内調査を1・2学期末の2回実施し、「自分の将来に夢や希望をもっていますか」という問いに対して、「そう思う」と回答をする生徒の割合を向上させる。 <p>結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 事業所を訪れての職場体験学習は実施できなかったが、職種ごとに新聞を作成して、職業や進路に関する関心を高めた。体験講座・職業講話については、3学期に検討中。また、キャリア・パスポートは、主に学年初めや学期末に目標・達成内容について振り返っている。3年生では卒業後の進路を見据え、「18歳の私」に向け、しっかり伝えていく。 ● 校内調査で「そう思う」と回答する生徒 31.0%→29.4%。肯定的回答は 63.7%→66.1%。今後も一人ひとりに寄り添った関わりを継続する。 | <p>B</p> |
| <p>取組内容 8【施策 2 道徳心・社会性の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 個別の教育支援計画に基づき、すべての生徒を支援するユニバーサル教育を推進する。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 校内掲示を、誰にでも簡単で、分かりやすい表示に変える。 ● 外部講師を招聘し、障がいに関する特別授業や、体験学習を実施する。 ● 定例会議等で検討会を随時行い、ダッシュボードでの情報交換等により教職員間の連携を図りながら、生徒へのきめ細かな対応にあたる。 ● 校内調査を1・2学期末の2回実施し、「学校へ行くことが楽しいですか」という問いに対して、「そう思う」と回答をする生徒の割合を向上させる。 <p>結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 校内掲示に関して、職員室前や各階の案内表示など全ての生徒が過ごしやすい環境を整えることができている。 ● 各学年の特別支援学習として外部講師を招聘し、パラリンピック学習、ゴールボール体験を実施し、障がいについての理解を深めた。 ● 定例会議、校務支援での情報共有を実施した。 ● 校内調査で「そう思う」と回答をする生徒……38.0%→35.2%。肯定的回答は 75.4%→76.0% | <p>B</p> |
| <p>取組内容 9【施策 2 道徳心・社会性の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 多様な文化を互いに理解しあう態度を養い、逞しく生きる生徒を育成する。 <p>指標</p> | <p>B</p> |

| | |
|---|----------|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 国際クラブ、渡日生徒のための学習会を週 2 回行う。 ● 外部講師を招聘し、人権・国際理解に関する特別授業を年 4 回以上実施する。 ● 校内調査を 1・2 学期末の 2 回実施し、「自分には良いところや得意なことがあると思いますか」という問いに対して、「そう思う」と回答をする生徒の割合を向上させる。 <p>結果</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ● 国際クラブ、学習会を週 2 回実施。 ● 3 学期に、1 年生で多文化を知る体験学習、2 年生で多様性について、3 年生で進路に向けた特別授業を実施。 ● 「そう思う」と回答した生徒の割合……33.3%→29.4%。取り組み実施の時期が遅く、アンケート結果で効果を確認できなかった。 <p>改善点</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ● 国際理解や多様性に関する授業を前半から計画し、生徒の自己肯定感を早い時期から高めていく。 | |
| <p>取組内容 10【施策 2 道徳心・社会性の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 教科書を通して、様々な「気づき」を促し、道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。 ● 子どもが優れた芸術文化に触れる機会を確保し、豊かな心や感性、創造性を育む。 <p>指標</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ● 校内調査を 1・2 学期末の 2 回実施し、「生命の大切さや社会のルールについて学んでいますか」について「そう思う」と回答をする生徒の割合を向上させる。 <p>結果</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ● 道徳の評価システムを各学年統一し、道徳冊子を回覧・周知した。 ● 「そう思う」と回答した生徒の割合……51.5%→54.2% ● 11 月 1 週目に、SDGs に関わる演劇鑑賞を実施し、文化活動発表会では、吹奏楽部による演奏、作品展示、3 年生の SDGs に関して動画での発表を実施。 | B |

| |
|-------------------------|
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 |
| ※ 各取組内容の中に合わせて記載。 |
| 次年度(今後)への改善点 |
| ※ 各取組内容の中に合わせて記載。 |

大阪市立難波中学校 令和 2 年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

| | | |
|------|----------------------|-------------------------|
| 評価基準 | A: 目標を上回って達成した | B: 目標どおりに達成した |
| | C: 取り組んだが目標を達成できなかった | D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|--|------|
| <p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。【達成】 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 1 年生※³科 [R2]0.86→[R3]0.92 ➢ 2 年生※³科 [R2]0.80→[R3]0.93 ➢ 3 年生※⁵科 [R2]実施せず→[R3]0.91 ● 中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の 7 割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント減少させる。【達成】 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 1 年生※³科 [R2]33.9→[R3]25.0 ➢ 2 年生※³科 [R2]41.1→[R3]21.8 ➢ 3 年生※⁵科 [R2]実施せず→[R3]27.5 ● 中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を 2 割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント増加させる。【達成】 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 1 年生※³科 [R2]13.6→[R3]18.1 ➢ 2 年生※³科 [R2]14.3→[R3]21.8 ➢ 3 年生※⁵科 [R2]実施せず→[R3]19.6 ● 校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。【達成】 <ul style="list-style-type: none"> ➢ [R2]80.8%→[R3]86.6% ● 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点において、全国平均との差を -5 ポイント以上にする。※()内は全国平均、R2 は大阪市体力テストから 【達成】 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 男子[R1]32.71(41.6)→[R2]37.67→[R3] 39.77(41.18) 差▲1.41 ➢ 女子[R1]42.91(50.0)→[R2]45.66→[R3] 差 1.03 <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新体力テストを実施し、昨年度の体力合計点を維持・向上させる。【未達成】 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 男子[R2]37.67→[R3]35.79 ➢ 女子[R2]45.66→[R3]47.93 ● 校内調査における「朝食を毎日食べていますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を 80.0%以上にする。【達成】 <ul style="list-style-type: none"> ➢ [R2]84.4→[R3]83.8% | B |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|---|------|
| <p>取組内容 11【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● リーディングスキルテストの結果から本校生徒の実態を把握し、指導の工夫改善により、読解力の向上を図る。 <p>指標</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ● 把握したスキルをふまえ、リーディングスキルを意識した授業を全教科で実施する。 ● 校内調査を 1・2 学期末の 2 回実施し、「授業の内容が分かるようになっていきますか」という問いに対して、「そう思う」と回答をする生徒の割合を向上させる。 <p>結果</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ● リーディングスキルテスト(以下 RST)の結果を受け、6 つの問題分野を意識した授業を、全教科で実施。7 月に全学年で RST を実施。9 月には校内研究授業、10 月には指導主事による研修会を実施。また、結果分析から、研修主任が中心となり読解力向上を意識した実践授業・研究協議を実施している。3 月にも学力向上研修を実施予定。 ● 校内調査で「そう思う」の割合……35.7%→31.3% <p>改善点</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ● 授業改善チェックリストの「教師の活動」を周知・共有し、RST の視点に基づいた授業づくりを、教科の授業だけでなく学級活動でも意識して取り組む。 | C |
| <p>取組内容 12【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各教科において、「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた授業を行い、学力の向上を目指す。 <p>指標</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ● 教員間の相互授業、研究授業、授業後の研究討議を実施し、教員の授業力をのばす。 ● 「主体的・対話的で深い学び」をはじめとする、授業力の向上に関する研究会や発表会の案内を回覧し、啓発を行う。 <p>結果</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ● 9 月～10 月に全教員を対象にした相互授業参観を実施した。 ● 研究授業・研究討議については、情勢を踏まえて全体での実施は見合わせ、担当の教員のみで実施した。 ● 各研究会、発表会の案内を回覧し、啓発を行っている。オンラインで実施される研修会に参加している。 ● 毎月の教科会で、授業や評価について議論を重ね、教員の授業力の向上を図った。また、読解力の向上について研究主任を中心に、生徒が持つ課題を踏まえた教科横断的な研修会を校内で実施した。 | B |
| <p>取組内容 13【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学校力 UP コーディネーター、学校力 UP サポーター、学校元気アップ事業、外国人教育主担と連携し、放課後、テスト前、長期休業中の学習会を実施する。 <p>指標</p> <hr/> | C |

| | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 学校評価アンケートの「放課後やテスト前の学習会などの補充学習に参加していますか」という問いに対して、肯定的な回答をする生徒の割合を 50%以上にする。 <p>結果</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ● 肯定的な回答をした生徒の割合……43.9%→34.1.% ● 夏休みに各学年で行った学習会定期テスト前の元気アップ学習会に多くの生徒が参加した。 ● 1 回目のアンケート結果でも目標を達成できていなかったため、中間反省時に学習会の実施を呼びかけたが、コロナ禍の情勢により実施が困難であった。放課後に再テストを実施し、学力向上に取り組む教科もあったが、学校全体をあげての取り組みとはならなかった。 <p>改善点</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ● 元気アップやサポーターと連携し、生徒の自主学習環境を整える。また、生徒が家庭学習に取り組めるよう、デジタルドリルの活用を推進する。 | |
| <p>取組内容 14【施策 6 国際社会において生き抜く力の育成】</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ● ICT の設備や環境を整え、教員の ICT 活用指導力の向上を図る。 <p>指標</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ● ICT 支援員と連携し、定期的に研修を実施する。 ● 学校評価アンケートの「ICT を活用した教材の導入がしやすくなりましたか」という問いに対して、肯定的な回答をする教職員の割合を 100%にする。 <p>結果</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ● 夏休みにデジタルドリルの研修会を実施した。 ● 肯定的な回答をした職員の割合……95.3%→92.6% ● ICT 支援員やデジタルドリル支援員と相談しながら、準備されている様々なコンテンツの有効的な活用方法について考えた。 ● 年度途中の端末入替えやネットワークの切替えのため、多少の混乱が生じた。また、通信環境の問題や端末の不具合など、ハード面の課題が多くあったが、多くの教員が端末を活用した授業を展開し、生徒も難なく活用できている。 ● 自宅からのオンライン授業への参加もスムーズにできており、休校期間も大きな混乱なく乗り越えられ、教職員の ICT 活用指導力は大いに向上しているといえる。 | B |
| <p>取組内容 15【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ● 適切な運動習慣を確立させ、自己の状況に応じた体力の向上と心身の調和的発達を図る。 ● スポーツ活動を実施し、生徒の関心・意欲を高める。 <p>指標</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ● 授業や部活動で昨年度調査の課題を共有し、各場面での指導に役立てる。 ● 今年度の新体力テストにおける体力合計点を、昨年度よりも 2 ポイント向上させる。 <p>結果</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ● 緊急事態宣言の発令期間が長かった影響から活動を制限する必要があったが、限られた条件を守り、体力の向上に向け積極的に取り組んだ。 ● 体育大会は日程を変更して、内容を縮小しての実施となったが、生徒は限られたプログラムの中で一生懸命競技に参加する姿が見られた。 | B |

| | |
|--|----------|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 学年ごとに球技大会を実施し、クラス対抗で競技を行った。 ● 新体力テストにおける体力合計点 男子[R2]37.67→[R3]35.79、女子[R2]45.66→[R3]47.93 <p>改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 男子の記録が伸びず、目標を達成することができなかった。授業の見学者はほとんどなく、記録向上や技能習得を意識して積極的に取り組むことができている。学年ごとの課題を分析し、個々の健康増進・体力の向上を目指し、次年度も継続して取り組む。 | |
| <p>取組内容 16【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 健康な生活と疾病の予防について理解させ、生徒の健康への意識向上を図る。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 毎月、保健だより・食育だよりを配付し、生徒への周知を徹底する。 ● 各学期に委員会活動を通じて情報発信を行い、生徒や保護者に健康への意識を促す。 ● 専門的知識を持った外部講師を招聘し、食育・保健に関する特別授業を年 10 回以上実施する。 <p>結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 毎月、保健だより・食育だよりを配付し、周知徹底した。 ● 校内アンケートで「様々な機会において健康に関する情報発信を行うなど、生徒・保護者に健康への意識向上を図っていますか」に肯定的な回答をした教職員 85.8%→100% ● 食育・保健に関する特別授業は 6・9・10・11～2 月で実施した。3 年生では外部講師を招聘し、性感染症を中心に授業を行った。3 月までに、2 年生で助産師さんによる性に関する講話を行う予定である。 | B |
| <p>取組内容 17【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学校生活及び校外生活における保健・安全管理に努める。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学校保健委員会を年間 2 回、安全衛生委員会を年間 3 回実施し、専門家からの定期的アドバイスを受ける。 ● 毎週 1 回、健康教育部での学校安全点検を実施する。 ● 学校医や学校薬剤師とも連携し、教職員・保護者へ必要な情報を周知し、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止する。 <p>結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 安全衛生委員会を 7 月・12 月に実施。学校医から健康上のアドバイスを受けた。特に今年は眼科の受診率が 34.5%と低かったため、今後学級担任や保護者と今より更に連携していく必要がある。 ● 週 1 回、学校安全点検を実施。破損箇所の改善にあたっている。 ● 感染拡大防止のため、保護者宛に健康観察についての手紙を配布し、毎朝登校時の検温と Google Classroom で健康観察の入力を実施した。休日の健康観察入力忘れが多いので、これまで以上に健康観察や基本的な感染対策、定期的な換気の徹底などを意識的に行っていくよう、継続して周知徹底する必要がある。 | B |

| |
|-------------------------|
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 |
| ※ 各取組内容の中に合わせて記載。 |
| 次年度(今後)への改善点 |
| ※ 各取組内容の中に合わせて記載。 |